

島田清 謙 小説家、郷土史家。明治四十一年九月、一千九百長崎縣生れ、昭和五十一年六月七日歿（一九九一七七）。電信技手きここぬたが、昭和七年上京して同郷の福田清人宅に寄宿。のち満洲に渡り満洲電信電話公社に入社。引揚げ後、在滿時代、引揚體験、廢墟の長崎等を題材とした小説を書いた。妻は作家正林英子の妹。満洲時代に生まれ、子紀孝心、詩集『信濃の風』（昭和五十四年刊）がある。

著書

『寛延二年』

『姫路藩百姓一揆と滑甚兵衛』

『おわら』

（昭和二十九年九月）

『庫・清水澄海刊』

『大燈国師』

（昭和二十五年五月十九日大燈国師

顕彰会）

『池田草庵』

（昭和二十五年十一月一日兵庫・兵庫県教育

委員会）

『紙平』

（内題「賀建城平」昭和二十六年十一月二日兵庫

県教育委員会・南淡町教育委員会・淡路八公民館連盟・神戸新聞社）

『鈴木重胤』

（昭和二十九年一月六日兵庫県教育委員会・北淡町教育

委員会・淡路八公民館連盟・神戸新聞社）

『萬尾時春』

『科学者』

（昭和四十六年二月兵庫・兵庫県教育研究所）

『創作集』

（昭和五十二年五月十五日栄光出版社）等。

